

理事長・学長記者会見（理事長・学長あいさつ）

日時：令和5年（2023年）4月20日（木）10:00～

場所：CPD ホール

理事長あいさつ

【白石理事長】

ご参集いただきましてありがとうございます。理事長の白石です。

この3年、コロナ禍で考えたことは、大学とはどういうところなのかということです。コロナが始まった時には、ご承知のとおり対面では授業ができなくなりましたので、ハイブリッドの方向に変えましたけれども、半分ぐらいの講義がハイブリッドやオンラインでということになりますと、そもそも大学ってどういうところなのかということになります。

答えが出たと思っておりますけれども、小中高校とある意味では社会的に作られた制度の中で育ってきた生徒達が大学の4年間、自分たちで生活を実施していくと、自分たちで何をこれから一生の間にやりたいことなのかを考えるという、社会人になる非常に重要な4年間に、大学として何ができるんだろうといろいろ考えました。

これから学生と一緒に新しい大学のあり方を、他大学でもいろんな実験が行われていましてけれども、そういうものを見ながら是非進めていきたいと思えます。

本学の場合、この3年の間に4つの非常に重要なことがございました。

1つ目は、学部に関わりなく学生全員にデータサイエンスを必修として学んでもらうということです。

2つ目が発表項目にあるように、総合管理学部における専攻制の導入です。マネジメントを学びたい人にとって、どういうことを勉強するのがいいのかを澤田学部長中心に考えていただきました。

3つ目は、球磨川の洪水の後に蒲島知事ともご相談して、緑の流域治水についての研究室を立ち上げることになりました。本学は県の大学ですから、県にとってプラスになることであればやりたいということで、九州大学から島谷先生に来ていただいて、順調に立ち上がってきました。

4つ目に、当然のことですが、コロナ禍でDX、ハイブリッドの教育が重要になりました。単に教えるところでオンラインを使うだけではなく、教務・事務からすべてDXで進める形に、3年かけてやろうということになりました。今年度、これもある程度完成すると期待しております。

これらがこの3年あまりの本学の重要な取組です。

学長あいさつ

【堤学長】

堤でございます。

コロナが収束し、次の波の恐れもありますが、本学も通常の業務に戻るのではという状

況になってまいります。

ですが、この3年間の間に、必要に迫られてではあります、オンラインの授業なり、いろんな事務作業でもコンピューター上でやるような業務が増えました。そのことによって、教える技量がリニューアルされた状況です。オンライン授業に関してのいろんな議論がありますが、いいところは確かにあるというのはこれも多くの方が認識しているところで、そのいいところを残してこれから授業をやっていくこととなります。ですから、完全に元に戻った対面式の授業をするわけではなく、進化した形の授業を展開していけるように、発展させていきたいと思っています。